

## 「今までに感じたやりがい」を思い出して

法律事務所職員  
高村 早苗

大学を卒業して法律事務所職員になり8年余りになる。法律事務所の仕事には色々な職種があり、とても興味深い。同じような事件のようだが、依頼者の事情はそれぞれ異なるので、全く同じ内容ということはないと思う。

冷や汗をかいたり、力んだり…  
ハプニングが多い現場

執行現場などではハプニングが多い。以前経験した不動産明渡事件では、断行当日、現場に行ってみると、家財の搬出を予定していた道路でその日から下水道工事が始まっており、面食らったことがある。道路工事のため執行現場付近ではトラックが停められず、明渡作業は困難であるかと思われたのだが、執行業者の工夫と努力により何とかトラックを停めて無事荷物の搬出はできた。このときは全く冷や汗をかいた。「事前の現場調査は念入りにしよう」と深く反省をした一件である。

訴状が不送達になり、送達場所調査のため被告の住所地へ初めて一人で行ったときのこと。被告が住む家の隣人にあまりに力んで質問したため、とても不審がられた恥ずかしい思い出もある。

数センチの記録の中に  
依頼者の色々な思いがある

普段は室内でパソコンに向かって仕事をしている

ことが多い。自分の目の前に並ぶ記録をみていると「数センチの記録の中に依頼者の方の色々な思いがある」とふと思ったことがあった。

例えば、破産事件などでは、依頼者の方は色々な事情の中でやむを得ず金融会社からの借入れを繰り返し、思い悩んで法律相談に訪れる。同席させていただいた相談の中で、依頼者の方から「借金を整理してやり直したい」という言葉を聞いたとき、「そのために自分が手伝えることがあるならば」という気持ちになった。建物収去事件終了後の依頼者のほっとした表情をみたとき、「お手伝いできてよかった」と自分も嬉しくなった。

法律事務所職員の仕事にはなかなか面倒なことも多く、やりがいを感じられる機会が少ないと思われがちかもしれない。しかし、依頼者の利益のために自分のした仕事が役立ったと少しでも感じられる時、やりがいといっちは大げさだが、それに近い気持ちを感じる。

子育てに、仕事に、  
明日からまた頑張ろう

ここ数年の間で、私は結婚し子供を産み、生活環境ががらりと変わった。今は周りの方々にフォローしてもらいながら子育てや仕事をしている。日々時間に追われてしまい、仕事をこなすことに必死になりがちであるが、今ここで「今までに感じたやりがい」を思い出し、明日からの仕事をまた頑張ろうと思う。